

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】(小学校)

学校の概要(平成15年4月現在)

都道府県名 熊本県

学校名	熊本市立五福小学校							
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	1	2	1	1	1	1	7	20
児童数	32	46	39	37	25	40	219	

研究の概要

1 研究主題

確かな学びと、共に生きる力を培う教育課程の創造  
 ~基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善と、かかわりあう活動の充実~

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 全学年・算数科を中心に習熟度の違いが大きく、学習過程で個人差が表れやすい教科であるため。
- ・ 算数科で共通理解、共通実践を図ることで、子どもたちが学び方がわかり、自ら学ぶ力を身につけ、すべての教科や領域、生活の中で生きて働く力を発揮できるようにするため。

(2) 年次計画

平成15年度	<b>テーマ</b>
	確かな学びと、共に生きる力を培う教育課程の創造 ~基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善と、かかわりあう活動の充実~
	<b>研究の見通し</b>
	<仮説1> 主体的な学びを育てる指導について指導方法の工夫改善を図り、子どもたちがよりよく生きるために必要な基礎・基本の力を確かに身につけることができれば、学ぶ意欲を高めながら自ら学び、考える子どもが育つであろう。 <仮説2> 学校の中で子どもたち同士が主体的にかかわりあう場を設定したり、学校・地域・家庭がそれぞれの役割を機能させながら相互に連携を深め、教育活動の中に地域の教育力を効果的に取り込んだりして、かかわりあう活動を充実させれば、周りの人と共に学び、高め合う子どもが育つであろう。
	研究の年間計画作成 研究の組織づくり 算数科を中心にした個に応じた指導方法の研究、実践

**研究の内容・方法**

**視点1 (仮説1に対する方法)・・・基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善  
個に応じた指導の充実**

学びを支える学習態度の育成

子どもの実態や単元の特性に応じた指導形態(T・T、少人数指導)の工夫  
指導に生きる評価活動の工夫(ねらいを明確にした授業づくり、通知表の改善と  
評価の観点の明確化)

学びを深め、広げる習熟度別コースの設定

子どもの実態に応じた基礎・基本の重点事項の設定

繰り返し学習の場(朝・夕のびっ子タイム)の設定と工夫

**かかわりあう学びの場の工夫**

友達と学びあう場の工夫

地域人材の効果的な生かし方

**視点2 (仮説2に対する方法)・・・かかわりあう活動の充実**

**ふれあい、かかわりあう地域との連携を図ったかがやきたい<sup>む</sup>夢の充実**

ふれあいを広げ、深める公民館講座、地域行事参加

自ら考え、かかわりあう風流街浪漫フェスタ参加

**自分の生活をみつめ高める生活習慣づくり**

生活目標との関連を図った五福ノートの生かし方

家庭との連携を図ったすこやかカードの実践

**共に学び、高め合う集会活動(五福タイム)の充実**

主体的に働きかける委員会活動

異学年同士のかかわりを深める縦割り活動の充実

**自立活動における支援の工夫(通級指導教室)**

小集団活動を通してのかかわりの深め方

**テーマ**

確かな学びと、共に生きる力を培う教育課程の創造

～基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善と、かかわりあう活動の充

平成  
16  
年  
度

**研究の見直し**

研究の年間計画作成

研究の組織とその内容の見直し

平成15年度の研究の課題から算数科を中心にした個に応じた指導方法の研究、  
実践の見直しと焦点化

学びあいの場の設定と充実

学力向上に向けての家庭や地域との連携を図った取組

## 研究の内容・方法

### 視点1 (仮説1に対する方法)・・・基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫改善 個に応じた指導の充実

学びを支える学習態度の育成

子どもの実態や単元の特性に応じた指導形態(T・T、少人数指導)の工夫

指導に生きる評価活動の工夫(ねらいを明確にした授業づくり、通知表の評価の  
観点の明確化)

学びを深め、広げる習熟度別コースの設定と評価問題の工夫

子どもの実態に応じた基礎・基本の重点事項の設定

繰り返し学習の場(朝・夕のびっ子タイム)の設定と工夫

### かかわりあう学びの場の工夫

友達と学びあう場の工夫

地域人材の効果的な生かし方

### 視点2 (仮説2に対する方法)・・・かかわりあう活動の充実

### ふれあい、かかわりあう地域との連携を図ったかがやきたい<sup>む</sup>夢の充実

ふれあいを広げ、深める公民館講座、地域行事参加

自ら考え、かかわりあう風流街浪漫フェスタ参加

### 自分の生活をみつめ高める生活習慣づくり

生活目標との関連を図った五福ノートの生かし方

家庭との連携を図ったすこやかカードの実践

### 共に学び、高め合う集会活動(五福タイム)の充実

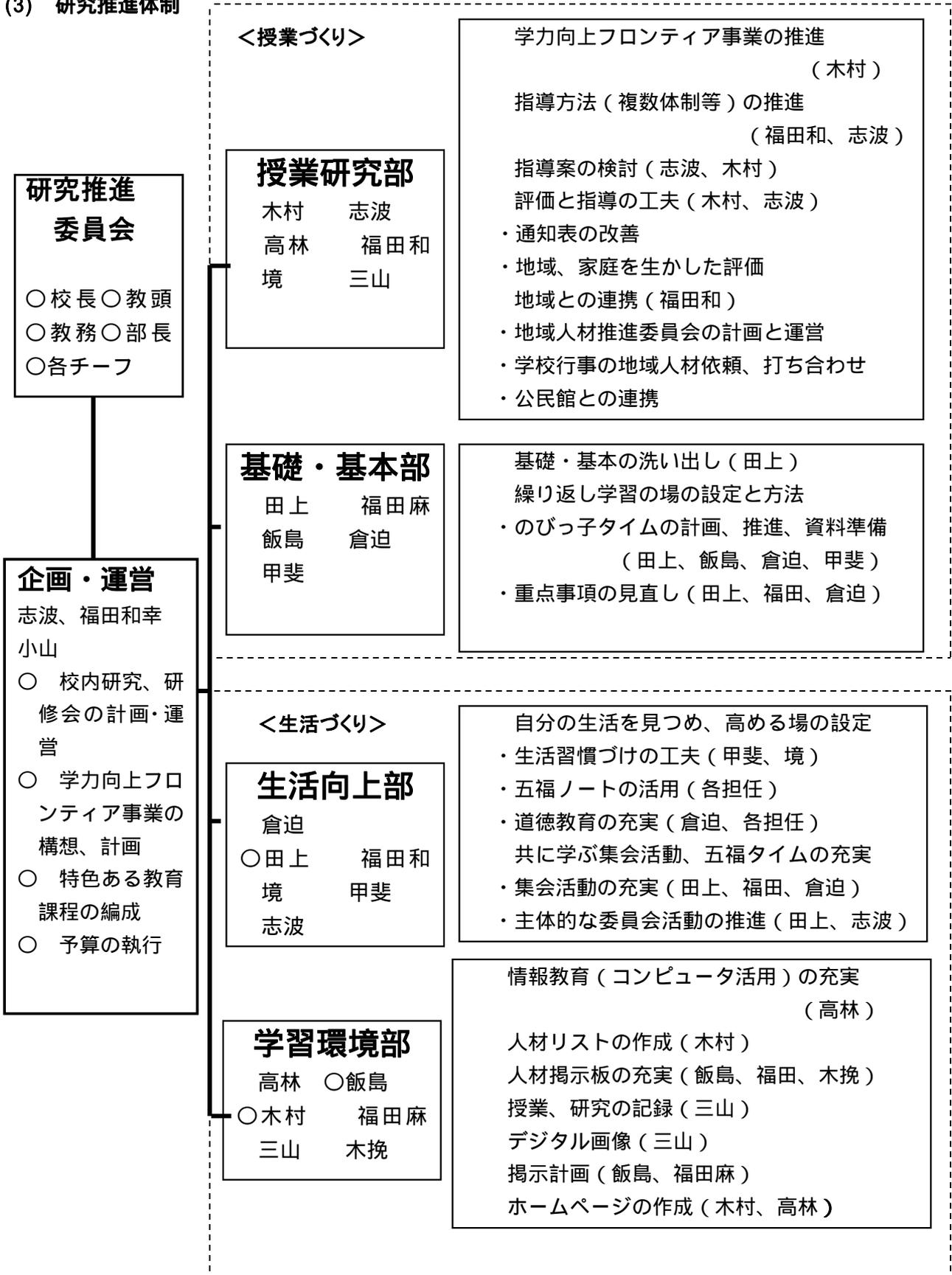
主体的に働きかける委員会活動

異学年同士のかかわりを深める縦割り活動の充実

### 自立活動における支援の工夫(通級指導教室)

小集団活動を通してのかかわりの深め方

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1 研究成果

#### <視点1について>

- 評価を生かした単元の指導構想を立てて、学校全体の教育課程や指導方法を工夫して取り組んだことで、一人一人の実態に応じた指導をするようになり、子どもも、授業中に真剣にじっくり取り組む態度が育っている。
- 子どもが多くの先生にかかわり、認められる機会が増えたことで、自信をもって意欲的に学習している。
- 複数指導体制の実践で、教師の間に、学校全体で、子どもを育てていこうとする意識が高まっている。

#### <視点2について>

- 縦割りの集会活動(五福タイム)が定着するにつれ自然に異学年の子供同士がかかわりあう姿や自ら考え、主体的にリードする高学年の姿がみられるようになった。
- 学校評議員やかがやきネットティーチャーの授業へのかかわりが学校教育への理解を深める基となり、“地域で子どもを育てる”という意識が地域、家庭全体へ広がり、「共に学ぶ力」につながっている。

### 2 今後の課題

- 文章題に苦手意識を感じている子どもが多い。6年生で「どの式を使えばよいかわからない。」という理由を挙げている子どもがいた。個に応じた指導をさらに工夫改善し、子どもが自信をもって確かな学びを身に付けていけるようにしたい。
- 学力向上フロンティア事業として、子どもに確かな力がついたという科学的な比較データと分析を行っていく必要がある。そのためには本校独自の評価問題作成や学力テスト実施の工夫をしていきたい。
- 通知表の学期ごとの観点を家庭や子どもに知らせ、生活習慣づくりと合わせて家庭との連携を図り、共に、子どもの学力向上を図る工夫をさらにしていきたい。

### 学力等把握のための学校としての取組

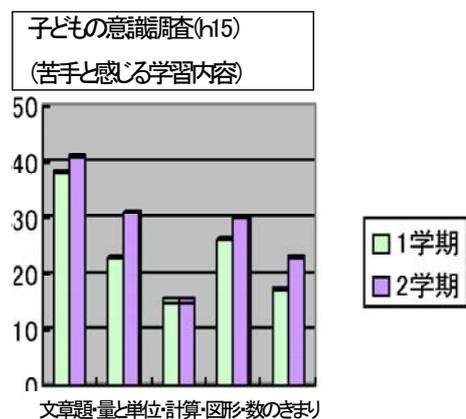
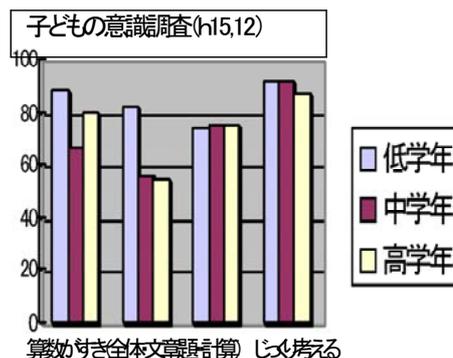
#### 1 目的

子どもの学力の実態を客観的に把握し、適切な指導に生かすため。

#### 2 実施内容

学力テスト(NRT)・・・国語(全学年)算数(全学年)社会(5,6年)理科(5,6年)

ゆうチャレンジ・・・国語、算数(3,4,5,6年)



### 3 時期

学力テスト……2月17,18日実施予定

ゆうチャレンジ……1月29日、30日実施

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究発表会の開催。

日時……平成16年10月予定

場所……熊本市立五福小学校、五福公民館

対象……熊本県小・中学校教職員

会の目的……研究発表をすることで、広く研究成果の普及を果たす。

- ホームページ、研究紀要で研究の成果を公開。

- フロンティアティーチャーで、視察の対応。

---

【新規校・継続校】	平成15年度からの新規校	平成14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無		